

日本地衣学会

No.26

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告.....	89
	第2回観察会（森吉山）およびワークショップ（秋田県大）の記録 / 山本好和.....	89

会務報告 Reports of the JSL Activities

第2回観察会（森吉山）およびワークショップ（秋田県大）の記録

Report of the 2nd Field Meeting (Mt. Moriyoshi) and Workshop (Akita Pref. Univ.) of JSL

1. 森吉山

森吉山は八郎瀧の西，八幡平の東にあり，秋田県の中央部にどっしりと構える 1454m の火山独立峰である。秋田県の山としては 秋田駒ヶ岳や白神山地ほど有名ではないが，山腹にクマゲラが生息する広大なブナ原生林を抱え，渓流に懸かる数々の滝など見るべきところも多い山である。

今回の観察場所，宿泊場所となった妖精の森，なんとやさしいネーミングだろう。昨年，講座の研修旅行にこの地を選んだのはその名前からだったが，来てみてブナの木々囲まれた霧囲気は妖精の森に本当にふさわしい。そればかりか，コテージが新しくきれいなこともあって，観察会の場所にしようとその時心に決めた。

2. 森吉山妖精の森へ一路

今回の集合場所である上小阿仁村道の駅に，東京から安齊号，岩手県から齊藤号と角田号それに秋田から小峰

号と山本号の以上 5 台が集結した。安齊号には観察会荒らしの異名をとる安齊氏にこれまた観察会には必ず現れる小山内氏，角田氏は岩手宮古からわざわざ関東の地衣教室に現れ，青空教室を雪空教室に変えた荒技の持ち主である。小峰号は秋田県大の参加学生，中には昨年の観察会でナガサルオガセに狂乱した藤井・藤原両氏を乗せている。山本号には昨夜秋田料理に舌鼓をうった吉村氏と高萩氏，残念ながら昨夜は東京泊まりで秋田料理に無縁だった佐藤氏を乗せていた。以上観察会勇士を含む 15 名の自己紹介を終えてしばしの休憩ののち，山本号を先頭に一路森吉山に向かった。道はくまげらエコーライン，行き交う車の数は少なく，快調に飛ばした。途中森吉山が右手にそびえ，今日の終点である妖精の森スキー場がはるか先に見えた。途中から森吉山への山登りとなった。急坂を右に左にカーブしながら高度をかせぎ，道の駅から小一時間で今日の目的地であるブナ原生林の妖精の森に到着した。管理棟でチェックインを済ませ，

コテージ 3 棟に各自分かれ、夕食まで休息となった。若者たちは鋭気を養いアスレチックに、勇士たちは地衣類談義にそれぞれ思い思いに時を過ごした。大気は新鮮な森の香りに満ち満ちてかつ澄み渡り、飯の住まいは新しく、明日の地衣類との戦いに期待は胸膨らんだ。

夕食は昨年と同様のバーベキュー。ただ趣向は異なり、こちらはコテージ前の野外バーベキューであった。自らが火をおこし、好きな飲み物を手に取り、吉村氏の乾杯の音頭もそこそこに、3 台のバーベキュー台の周りに群がり、思い思いに好きな物を載せて腹を満たした。終宴近くには藤原氏と小峰氏の焼きそば競演があった。最後食べきれないほどの材料がまだ残った。勇士は明日の戦いに備えて眠りにつき、若者は夜半まで火の番をしながら夜空を見つめていた。(一部記憶違いの恐れあり)

3. 森吉山観察会

今回の観察会の見所はブナ林に着生する地衣類であるが、番外勝負も見所の一つである。関西では幾多の観察会を晴れにした自称“晴れ男”の山本と関東にまで雪を運んだ雨男の角田氏との対決である。初めての対決は昨年9月の八幡平で、その時は強風強雨で雨男の勝利、今年5月の田沢湖は晴れ男の勝利、3度目の対決に勝利の女神はどちらに微笑むのか。

さて、朝である。夜半から雨であった。管理棟で用意された朝食を済ませ、コテージの清掃や荷物の整理した頃には雨は小止みとなった、勇んで吉村講師を先頭に妖精の森に飛び出した。キャンプ場として整備され、ブナやミズナラが適当な距離をおいて立ち並んでいるので、日当たりがよく秋田のブナ林としては思ったよりも地衣がよく着生していた。カナブンのごとく吉村隊長を囲む輪がこちらのブナからあちらのブナへと移った(図1)。みんな

の熱意に押されたのか雨は止み、代わりに熱意に負けまいと冷たい風が吹きまくり、みんな震えながら観察を続けた。最後は管理棟前の土手、ここにはワイリツメゴケの群落がある。6月の下見時に見つけることが難しかったが、今回はそこで見つけることができた。この3ヶ月で大きくなったようだった。ここで管理棟におもむき昼食、冷えた体にスパゲッティーはうまかった。

昼食後コテージに戻り、荷物を車に詰め込んで妖精の森ともお別れだ。来た道を下り、くまげらエコラインに戻り、車はさらに進んで太平湖をめざした。道は普通車がやっとすれ違える幅、向こうから車が来ないことを祈りながら、道に沿って車をくねくねと走らせた。妖精の森から1時間で太平湖岸の遊覧船乗り場駐車場に着いた。ここが今日の2番目の観察スポットである。雨はすっかりあがりこちらは標高が低いので蒸し暑いくらいであった。駐車場から船着き場まで樹林の中の坂道沿いを観察した。湖のそばなので妖精の森よりは湿度も高い、木々の密度も濃く、高湿を好む地衣類が多い。船着き場付近は湖に開けているので、日当たりがよく樹皮にびっしり葉状地衣類が貼り付いていた。樹上や地上に生えている地衣類をみんな思い思いに写真をとったり、観察したりして時間を過ごした。



図1. 森吉山妖精の森での観察会風景(カナブンのごとく集団)



図 2 . 太平湖での記念撮影

ここ太平湖で北海道に向かう安斉さんとお別れということで記念撮影(図2)。残ったメンバーは翌日からのワークショップにはや心をはせ、元来た道を秋田に向け帰路についた。

今回は昨年の教訓を生かして歩く移動距離をなるべく減らし、観察したり写真を撮ったりする余裕を持たせた。おそらく参加されたみなさんはブナ林の地衣類を堪能したと思う。最後に晴れ男と雨男の対決は引き分け、勝負は次回に引き継がれた。

4 . 観察会の事務的な記録

1) 開催地

観察場所：森吉山妖精の森，太平湖岸（秋田県北秋田郡森吉町）

宿泊場所：森吉山妖精の森（秋田県北秋田郡森吉町）

2) 行程

8月30日。

15:30 上小阿仁村道の駅集合，森吉山妖精の森宿泊（コテージ3棟に分宿）。

8月31日

9:00 管理棟で朝食後出発，妖精の森で観察。

12:30 管理棟で昼食後出発

13:30 太平湖岸着、観察

15:00 解散

3) 参加者（会員 11 名，非会員 4 名）

阿部，安斉，伊東，遠藤，小山内，角田，北川，斉藤，佐藤，高萩，藤井，藤原，吉村（講師），小峰（世話人），山本（世話人）

4) 会計報告

自家用車で参加された安斉さん，角田さん，斉藤さんは 5 千円，それ以外の参加者は一律 7 千円と案外安い費用で開催することができた。残金 3250 円は学会本部に寄付した。

収入：参加費 99,000 円 支出：コテージ宿泊・食費 96,750 円

4 . ワークショップ（氏名敬称略）

ワークショップはいずれも秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科の学生実験室（生物）を使用して行われた。学生定員 40 名にそれぞれ幅 60cm の個人スペースと生物顕微鏡・実体顕微鏡各 1 台が配備されているという恵まれた実験環境である。ここでは 2 年生前期に生物実験を行い，4 週にわたる顕微鏡取り扱い実験や無菌操作，植物組織培養などが教えられている。

1 日目，吉村講師による地衣類の分類講座がはじまった。パワーポイントによるわかりやすい説明と今回の目玉，顕微結晶法や呈色法など主に顕微鏡を用いた実験が



図 3 . ワークショップ第 1 日目分類講座風景（パワーポイントを用いた説明）

行われた(図3)。出席者は前日の観察会に参加した阿部、伊東、小山内、角田、北川、小峰、斉藤、佐藤、藤井、藤原に加えて、県大生の嵯峨、瀬川、武田、栃木県から富永の計14名(会員11名、非会員4名)。

2日目。山本による地衣類の培養講座(図4)。出席者は前日に参加した阿部、伊東、角田、斉藤、佐藤、藤井に加えて、秋田県から菅原、福岡県から中島の計8名(会員5名、非会員3名)。午前中はオオコゴボシゴケとオオクロボシゴケを用いて孢子放出発芽実験が行われた。午後はヤリノホゴケとカラタチゴケを用いて組織培養実験が行われた。

3日目。山本による地衣成分の分析講座。出席者は前



図4. ワークショップ第2日目培養講座風景(地衣微小片の試験管植え付け作業)

Lichenology 日本地衣学会ニュースレター
とも、投稿先は:

原田 浩・〒260-8682千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館・Fax 043-266-2481.
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩:編集委員長)

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

Notice about photocopying

©2003 日本地衣学会 (©2003 The Japanese Society for Lichenology)
本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。

日や前々日に参加した阿部、伊東、遠藤、北川、角田、斉藤、佐藤、武田、中島、藤井の計10名(会員6名、非会員4名)。ウメノキゴケ、トゲシバリ、ヨコワサルオガセ、ナガサルオガセを材料に、午前中は抽出操作と薄層クロマトグラフィー(TLC)、午後は高速液体クロマトグラフィーを用いて行われた。午後は時間的余裕があったので学内見学も実施した。

ワークショップで用いたテキストは入手希望者にお送りしますので、筆者あてご連絡下さい。

今回の観察会&ワークショップは地域活性化委員会東北がお世話させて頂きました。観察会とワークショップという二つのイベントをドッキングさせた試みは好評だったようです。時間の都合で、両方参加できなかった方も多かったのですが、それぞれ満足して帰られました。秋田を含めた東北地域は豊かな自然が残っています。このような試みを来年はちょっと内容を変えて皆様にお届けしようと思っています。皆さん、遠いところをご参加いただきありがとうございました。次回観察会でまたお会いしましょう。

(山本好和:
第2回観察会およびワークショップ世話人)

In order to photocopy any work from this publication,
you or your organization must obtain permission. For
details, see no. 13, p. 46 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 26号

発行日: 2003年10月31日

編集: 原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内